

授業科目	肢体不自由教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂		単位	2
授業の目的と概要	肢体不自由児・者の教育について知ることを目的とする。また、肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴を理解するとともに教育課程、指導や支援の概要について理解を深めていく。授業では肢体不自由児・者の教育の歴史と現状、肢体不自由児・者の基本的理解、教育課程、指導の概説を学び、指導と支援の概要を理解することを目標とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴について説明できる。 ・肢体不自由児・者の教育について説明することができる。 ・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について述べる事が出来る。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	肢体不自由教育の現状に対する基本的理解	復習 肢体不自由教育の現状についてまとめる		
第2回	肢体不自由に対する基本的理解（医学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 医学的理解についてミニレポー		
第3回	肢体不自由に対する基本的理解（心理学的理解）	予習 資料を読んでおく 復習 心理学的理解についてミニレポ		
第4回	肢体不自由教育の歴史	予習 資料を読んでおく 復習 特別支援学校のホームページ検		
第5回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）	予習 資料を読んでおく 復習 乳幼児の指導法についてまとめ		
第6回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校）	予習 資料を読んでおく 復習 小学校の指導法についてまとめ		
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（中学校）	予習 資料を読んでおく 復習 中学校の指導法についてまとめ		
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（高等学校）	予習 資料を読んでおく 復習 高等学校の指導法についてまと		
第9回	教科指導（1）肢体不自由の学習における困難	予習 資料を読んでおく 復習 教科の指導法についてまとめる		
第10回	教科指導（2）障がい特性に対する工夫	予習 資料を読んでおく 復習 障がい特性の工夫を調べる		
第11回	教科指導（3）自立活動との関連から	予習 資料を読んでおく 復習 自利留活動についてミニレポー		
第12回	動作法について（1） からだところ	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてまとめる		
第13回	動作法について（2） 身体の動きを通した指導	予習 資料を読んでおく 復習 動作法についてミニレポート		
第14回	家族への支援	予習 資料を読んでおく 復習 家族の支援についてまとめる		
第15回	まとめ	予習 支援についてグループ討議 復習 支援のありかたについてまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	25％ ミニレポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』 慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版			
オフィスアワー	月曜日、火曜日午前中	メールアドレス		

授業科目	初等教育研究【演習】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八穂		単位	1
授業の目的と概要	<p>大学で学修した基本的知識・技能を基盤にし、小学校における見学実習を通して教師の授業力や子どもの理解、子どもとの関わり方を学ぶ。子どもの成長に関わる「体験」とその「体験」を通じた「省察」から、小学校教師のという仕事の理解を深め、教師としての使命感を明らかにする。また、実習前の事後指導、実習後の振り返りを通して教職への意欲を一層高める。</p>			
到達目標	<p>○小学校教師の一日を観察することにより、職務内容を理解することができる。 ○担当教師の子どもとの関わりから、一人一人の子ども理解と適切な対応について学ぶことができる。 ○教科指導の観察を通して子ども理解に立った学習指導の在り方を学ぶことができる。 ○体験後の省察を通して、小学校教育に対する課題を発見し、解決の道筋を討議することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -⑥人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は3年生の小学校実習、初等教育実習指導、教職実践演習と関連します。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、小学校見学実習の意義について	予習： 見学実習の意欲を持つ 復習： 見学実習の意義をまとめる		
第2回	小学校の一日と子どもの生活 VTR視聴 観察実習の進め方について	予習： 小学校の一日を予測する 復習： 観察実習の進め方をまとめる		
第3回	授業観察の仕方（授業の流れ、発問、板書など）について ICTを活用し、授業を検索する	予習： 授業観察の視点をもつ 復習： 観察方法をまとめる		
第4回	実習直前ガイダンス 学校生活における安全指導について	予習： 実習校について調べる 復習： 安全指導についてまとめる		
第5回	見学実習で見つけた課題をグループ討議で明らかにする。	予習： 見学実習での学びを整理 復習： 討議での課題をまとめる		
第6回	見学実習事後指導 小学校教師の仕事についてグループ討議する	予習： 小学校教師の仕事をまとめる 復習： 教師の取り組みをまとめる		
第7回	小学校教育実習に向けた自身の課題をまとめる	予習： 課題を明らかにしておく 復習： プレゼンにまとめる		
第8回	グループでプレゼンテーションする	予習： 発表準備をする 復習： 実習記録等提出物の整理		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％ 見学実習記録（実習日誌、事前学習、振り返り）			
小テスト等	—			
成果発表	30％ 実習校における振り返りの発表をグループごとにまとめる			
受講態度他	20％ グループ討議における積極的な参加、意見発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨み、小学校における本実習の受講を前提とする。			
教科書	『小学校学習指導要領』文部科学省			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に紹介する			
オフィスアワー	火曜日午後、水曜日午前	メールアドレス		

授業科目	初等国語科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八穂		単位	2
授業の目的と概要	<p>幼児期における言葉についての感覚や表現力、小学校国語科教育における目標、内容について理解する。「幼稚園教育要領」および「小学校学習指導要領 国語編」に基づき、教科内容を系統的に理解し、説明できるようになることを目的とする。さらに、自分たちの分担課題について主体的に調べ、グループで協働的に発表することを通して、初等国語科の教育内容にかかわる知識のさらなる習得、教員としての能力を身に付けることを目指す。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期から児童期の言葉の発達を理解し、言葉に対する感覚や表現について概要を説明することができる。 ○ 小学校国語科の内容について基礎的な知識を身に付け、系統的な指導法の必要性を説明することができる。 ○ 日本文学史の概要および代表的な作品について説明することができる。 ○ 毛筆と硬筆による「書写」指導の内容について理解し、自身の書写の基礎的技能を高めることができる。 ○ 言語を用いた種々の表現活動をグループで協働的に創造し、発表することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初等コースは2年の教科教育法国語、初等、幼保とも保育内容演習(言葉)と関連する科目です。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、人間と言葉	復習：言葉の機能や働きについてまとめる。		
第2回	言葉と生活(方言、外来語、流行語) 選んだ言葉で詩を書き換える(グループ活動)	予習：配付資料を読む 復習：生活と言葉についてまとめる		
第3回	国語辞典と漢和辞典	復習：時代と言葉について考えをまとめる		
第4回	言語活動①(絵本の読み聞かせをグループ内で行う)	予習：読み聞かせの思い出を書く 復習：思い出の絵本を再読する		
第5回	言語活動②(音読・朗読をグループで発表する)	予習：課題の音読練習をする。 復習：音読、朗読についてまとめる。		
第6回	言語活動③(詩、短歌、俳句) グループ活動で句会をする	予習：詩、短歌、俳句を創作する 復習：それぞれの良さをまとめる。		
第7回	日本の文学①(上代～中世) グループでブックトークをする。	予習：提示された時代の文学作品を探す		
第8回	日本の文学②(近世～現代) ブックトークをする。	予習：提示された時代の文学作品を探す		
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む。		
第10回	「書くこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む		
第11回	「読むこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む		
第12回	「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む		
第13回	書体の種類：書写①(毛筆による楷書)	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む		
第14回	書体の種類：書写②(硬筆)	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む		
第15回	言語活動における交流活動についてグループ討議をする。 学修のまとめ	復習：交流活動の意義について授業個人評価		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	20% 課題中に出されたミニレポート			
小テスト等	-			
成果発表	20% グループ発表する。			
受講態度他	10% 質問、意見発表など積極的な授業参加を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、読み聞かせと講義内容についての予習発表を実施します。(全員で順番に実施) 自分の分担の時には絵本を選んで、読み聞かせの練習をしておいてください。 第4回は国語辞典と漢和辞典を用意してください。</p>			
教科書	<p>小学校学習指導要領解説(国語編)(初等コースのみ) 幼稚園教育要領(幼保コースのみ)</p>			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適時指示します。			
オフィスアワー	水曜日午前	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（国語）【演習】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂	単位	2
授業の目的と概要	<p>国語を適切に表現し理解する能力を育成するための内容を、小学校学習指導要領に基づいて整理し、系統的な能力形成について理解し、実践的な力をつけることを目的とする。伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるような授業作りについて理解する。</p> <p>○小学校国語科の授業を計画、実践するために、各領域の授業のあり方について理解する。</p> <p>○国語科授業を構成するための理論、指導方法、教材や言語活動についての研究方法を理解し、学習指導案を作成する。</p> <p>○アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行う。</p>		
到達目標	<p>○学習者である児童理解に基づき、教材研究を行うことができる。</p> <p>○国語科の目標や児童理解の上で、単元の指導計画案を作成する能力をつける。</p> <p>○国語科指導に関わる指導内容を理解して、アクティブラーニングを取り入れた学習指導案を作成することができる。</p> <p>○国語科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</p> <p>○国語科指導における評価の方法を理解して、評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この科目は、1年生の「初等国語科概論」、3年生の「初等教育実習指導」と関連します。小学校教員の実務経験あり。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、国語科の目標と授業、国語科教育の構造 新学習指導要領と現学習指導要領の目標や内容を読み比べ、これからの国語科授業について	予習：新学習指導要領を読む 復習：目標と指導事項をまとめる	
第2回	国語科授業の計画 子供の認識や思考、学力を考慮した国語科授業の計画はいかにあるべきかを学ぶ。	予習：授業作りについてマッピング	
第3回	教材研究と教材開発（知識及び技能） 伝統的な言語文化や書写に浮いて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などに	予習：配付資料の教材研究	
第4回	教材研究と教材開発（話すこと・聞くこと） 話すこと・聞くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて	予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる	
第5回	教材研究と教材開発（書くこと） 書くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。	予習：配付資料の教材研究	
第6回	教材研究と教材開発（文学的文章） 文学を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。	予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる	
第7回	教材研究と教材開発（説明的文章） 説明的文章を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。	予習：配布資料で授業作り	
第8回	模擬授業の学習指導案作り 自分の選んだジャンルの教材研究、教材開発、指導案作成をグループで行う。	予習：模擬授業の教材研究	
第9回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第1回 「伝統的な言語文化」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第10回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第2回 「書写」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第11回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第3回 「話すこと・聞くこと」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第12回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第4回 「書くこと」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第13回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第5回 「読むこと（文学的文章）」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第14回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第6回 「読むこと（説明的文章）」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む	
第15回	模擬授業の振り返り、授業のまとめ 自分たちの模擬授業をビデオで振り返り、目標と評価の関連についてまとめる。	予習：模擬授業のVTRを視聴 復習：評価のあり方、学習のまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50％ 教材研究、模擬授業の学習指導案作成		
小テスト等	なし		
成果発表	30％ 模擬授業		
受講態度他	20％ 質問、意見発表など積極的な授業参加、グループ活動の様子、ノート評価		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義のノートを作成してください。予習、復習はノートにまとめてください。模擬授業の学習指導案は、前の週に配布してください。他のグループはそれを読んで模擬授業に参加してください。		
教科書	小学校学習指導要領解説「国語編」（1年次に購入済み）		
指定図書	授業で紹介		
参考図書	アクティブラーニングの授業展開（山元隆春編、東洋館出版）		
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午前	メールアドレス	

授業科目	保育原理【講義】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。 2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。 3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。 4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。 5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。 6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	保育とは何か～理念と概念について	教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する		
第2回	保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第3回	保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第4回	子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か	教科書第2章を読む。		
第5回	子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点	教科書第2章および資料を読んで整理する。		
第6回	保育の方法①生活と遊びを通して行うとは	教科書第4章を読む。		
第7回	保育の方法②遊びとは何か	教科書第4章をまとめる。		
第8回	保育の内容① 養護とは何か	教科書第3章を読む。		
第9回	保育の内容② 5領域の考え方	教科書第3章をまとめる		
第10回	保育の計画と評価	教科書第5章を読む。		
第11回	多様な子どもの理解と保育	教科書第10章を読む。		
	保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	教科書第12章を読む		
	保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準	保育資料集からまとめる		
	保育者の専門性と資質向上	教科書第8章を読む		
	保育とは何か・再考	保育について考えがどのように変化してきたかについてまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末テスト 基本的事項についての知識を問う			
レポート	30％ 保育とは何か 講義受講前と受講後の変化について考える			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 意見発表等をもとに講義に対する参加意欲を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと ・社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。 ・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。 			
教科書	汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい			
指定図書	宍戸健夫(1988) 「日本の幼児保育一昭和保育思想史〈上〉〈下〉(青木教育叢書)」 青木書店			
参考図書	清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育内容総論【演習】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎・北村 真理		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	<p>①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。</p> <p>②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。</p> <p>③「遊び」の重要性を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には保育士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則を読む		
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則のポイントを理解する		
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど	遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び	遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について	攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり	布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。		
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い	生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる		
第9回	情報機器の活用法と課題	配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる		
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児	要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる		
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点	どのような形態の保育があるのか、調べておくこと		
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育	長時間保育について配付された資料を読む		
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育	特別支援教育について配付された資料を読む		
第14回	保育を評価する方法について	要領・指針の保育の評価の項目を読む		
第15回	小学校教科とのつながり	学習指導要領を読む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 基本的事項について			
レポート	20％ 各講義内容についてのまとめ			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 製作物の提出・課題の達成度			
受講態度他	10％ 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	大豆生田啓友、渡辺英則、柴崎正行、増田まゆみ編『保育内容総論 第2版』ミネルヴァ書房（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院（2009）			
オフィスアワー	木曜日2限目	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（環境）【演習】	開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎	単位	2
授業の目的と概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことが目標である。その基盤として、乳幼児期の教育は保育者が「自発的、意欲的に関わられるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなう必要がある。よって本講義では、領域「環境」の教育目標達成のための「環境の構成力」を獲得するために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>①周囲のさまざまな環境で興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを具体的に説明する。 ②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎とその理由を具体的に説明する。 ③指導案を作成する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	領域「環境」のねらいと内容	要領・指針の領域「環境」の項目を読む	
第2回	領域「環境」の指導上の留意点	要領・指針の領域「環境」の指導上の留意点についてまとめる	
第3回	領域「環境」の保育実践の動向	上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する	
第4回	領域「環境」の実践のために① 周囲環境での「面白さ」を見つける	実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく	
第5回	領域「環境」の実践のために② 「面白さ」の内容を明らかにする	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第6回	領域「環境」の実践のために③ 「面白さ」を多面的に把握する	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第7回	情報機器の活用法 体験を補完する	体験を補完するものとしての情報機器の活用法について理解する	
第8回	指導案の作成① 3歳未満児	3歳未満児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第9回	指導案の作成② 3歳児	3歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第10回	指導案の作成③ 4歳児	4歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第11回	指導案の作成④ 5歳児	5歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第12回	模擬保育① 3歳未満児、3歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第13回	模擬保育② 4歳児、5歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第14回	小学校教科とのつながり① 生活科との関連	生活科の学習指導要領を読む	
第15回	小学校教科とのつながり② 理科との関連	理科の学習指導要領を読む	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 基本的項目についての理解を問う		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	50％ ①興味を持った事象のプレゼン 30％ ②指導案の提出 20％		
受講態度他	10％ 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。		
教科書	小田豊・湯川秀樹編 『保育内容 環境』 北大路書房(2009)		
指定図書	小泉英明・秋田喜代美・山田俊之『幼児期に育つ「科学する心」』 小学館(2007)		
参考図書	戸田拓夫 「おり紙ヒコーキ大集合BOOK」 いかだ社(2014)		
オフィスアワー	木曜2限（原）	メールアドレス	

授業科目	発達と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・石原(努)		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、目ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。 ・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。 ・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。 ・発達障害について説明でき、その支援方法について述べることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身につけている。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援学校教員、小学校教員としての実務経験のある者が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	ショートレポート		
第2回	発達について	ショートレポート		
第3回	発達段階の特徴 乳児期～幼児期	ショートレポート		
第4回	発達段階の特徴 児童期～青年期	ショートレポート		
第5回	ソーシャルスキルの発達(1) 乳幼児期～児童期	ショートレポート		
第6回	ソーシャルスキルの発達(2) 思春期～成人期	ショートレポート		
第7回	ことばの発達(1) 乳児期～幼児期の発達	ショートレポート		
第8回	ことばの発達(2) 児童期～青年期の発達	ショートレポート		
第9回	発達・教育支援の方法 アセスメント	ショートレポート		
第10回	発達・教育支援の方法 ABA	ショートレポート		
第11回	発達・教育支援の方法 BAA ソーシャルスキルトレーニング	ショートレポート		
第12回	発達・教育支援の方法 サバイバルスキルトレーニング	ショートレポート		
第13回	発達・教育支援の方法 感覚統合	ショートレポート		
第14回	発達障がいについて	ショートレポート		
第15回	家族支援について	最終レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭等にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】	開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べることができる。 2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。 3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。 4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要	・ DVD視聴	復習、中間レポートのための図書を探す	
第2回 知的障がいとは		中間レポートのための図書を探す	
第3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント		中間レポートのための図書を読む	
第4回 幼児期の療育、児童期の発達過程と支援		中間レポートのための図書を読む	
第5回 ダウン症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む	
第6回 ウィリアムズ症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む	
第7回 自閉スペクトラム症(1) : 自閉スペクトラム症とは、乳幼児期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第8回 自閉スペクトラム症(2) : 学童期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第9回 自閉スペクトラム症(3) : こだわり行動とパニックへについて		中間レポートを作成する	
第10回	: 就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴	障がい者の就労の現状について情報収集する	
第11回 青年以降の発達過程と支援、強度行動障害		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第14回 1次性併存障がいと 二次性併存障がい		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第15回 親ときょうだいこととの障がい		知的障がい者の家族支援について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験		
レポート	30% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2枚 図書リストは授業中に配布、筑女ネットにも掲示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選り読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。		
教科書	毎回資料を配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する		
オフィスアワー	水曜日 4 講目	メールアドレス	

授業科目	初等社会科概論【講義】	開講時期	前期
担当教員	松本 和寿	単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校社会科について、その性格と歴史、学習指導要領に基づく目標と内容の取り扱いを理解するとともに、小学校社会科の内容について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。</p> <p>『小学校学習指導要領解説社会編』に基づき社会科の目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校社会科の成立過程、変遷、目標、内容について述べることができる。 ・小学校社会科の学習内容について基礎的な理論および知識について説明することができる。 ・社会を取り巻く諸問題について国土および国際的視点から興味・関心を持ち、述べることができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	教育課程編成の必要性（教育基本法、学校教育法等を踏まえて）【討論】	小学生のときに受けた社会科授業を早期し説明する準備をする。	
第2回	社会科の目標と学年の目標	『小学校学習指導要領解説社会編』第1章を熟読しておく。	
第3回	3・4年生の目標と内容①（身近な地域、地域の生産や販売等）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。	
第4回	3・4年生の目標と内容②（地域の安全を守る諸活動、地域の発展に尽くした人々等）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。	
第5回	5年生の目標と内容①（我が国の国土の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。	
第6回	5年生の目標と内容②（我が国の農業や水産業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。	
第7回	5年生の目標と内容③（我が国の工業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。	
第8回	5年生の目標と内容④（我が国情報産業などの様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。	
第9回	6年生の目標と内容①（我が国の歴史上の主な事象①縄文～奈良・平安）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。	
第10回	6年生の目標と内容②（我が国の歴史上の主な事象②鎌倉・室町・江戸）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。	
第11回	6年生の目標と内容③（我が国の歴史上の主な事象③明治・昭和）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。	
第12回	6年生の目標と内容④（我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。	
第13回	6年生の目標と内容⑤（我が国とつながりの深い国の人々の生活、国際社会における我が国の役割）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。	
第14回	社会科で身に付ける学力とは（評価の観点）	『小学校学習指導要領解説社会編』第1章と第3章を熟読しておく。	
第15回	まとめ（社会科の指導計画作成上の留意点）【討論】	社会科指導で大切なことについて考え発表準備をしておく。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（社会編）』東洋館出版社		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスアワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	初等教科教育法（社会）【演習】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	『小学校学習指導要領解説（社会編）』に基づき、指導目標や内容、指導方法などを吟味した学習指導案を作成し、模擬授業をするを通して、社会科指導の基礎的実践力を身に付ける。 目的が達成できるよう、実践事例の紹介や解説に学んだ上で、グループごとに学習指導案を作成し模擬授業を行う。なお、この授業は1年次「初等社会科概論」の学習内容を基礎として行う。 模擬授業後には、学習指導要領に照らした内容の適切性や児童の意識の流れに即した発問や資料かななどを視点に毎回班別討議と全体討議を行う。その内容を踏まえて担当教員が助言を行う。（授業内容の下段は助言の視点）			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の目標を理解して単元の指導計画を作成することができる。 ・社会科の内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ・社会科の指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -⑥人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・学習指導要領における小学校社会科の目標と内容	1年次科目「初等社会科概論」を復習しておく。		
第2回	学習指導要領における小学校社会科の学年の目標と内容	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章を熟読しておく。		
第3回	社会科の単元構成と問題解決的学習、授業の構成と発展的学習	『小学校学習指導要領解説社会編』第3章を熟読しておく。		
第4回	模擬授業の準備（子どもの認識や思考の流れと情報機器・資料とのかかわり）	教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。		
第5回	模擬授業の準備（学習指導案における指導上の留意点と評価を踏まえた個へのかかわり方）	教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。（継続）		
第6回	模擬授業の準備（教材研究の視点、学習指導案の構成と記述の留意点）	教材研究、指導案作成、資料作成（模擬授業指導案提出）		
第7回	模擬授業①と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・指導要領との内容の整合性・資料の妥当性	模擬授業参加の視点についてまとめておく。		
第8回	模擬授業②と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・発問・机間指導	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。		
第9回	模擬授業③と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・板書・話し合いの設定	模擬授業（参観）の振り返り		
第10回	模擬授業④と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・児童の意識の流れに即した資料提示・児童の発言への対応	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。		
第11回	模擬授業⑤と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・視聴覚機器の活用	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。（継続）		
第12回	模擬授業⑥と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）	個人指導案作成（最終提出用）		
第13回	模擬授業⑦と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）1単元1サイクルの授業展開	個人指導案作成（最終提出用）（継続）		
第14回	模擬授業⑧と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・形成的評価の方法	個人指導案作成（最終提出用）（継続）		
第15回	模擬授業⑨と振り返り【模擬授業及び討議】（模擬授業全体の総括 個人指導案提出）	個人指導案（最終提出用）を完成させておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（個人で記述した指導案の内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％（模擬授業の内容）			
受講態度他	20％（討論への参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	正当な理由なく欠席しないこと。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	学校心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	石原 努・今里 順一	単位	2
授業の目的と概要	心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することを目的とする。 講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修する。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な子どもに関連する諸問題について考えながら、グループワークを通してその解決策やその技法について学修する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネーション）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。 ・学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 担当教員の中には小学校教員としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
1	講義の概要説明とオリエンテーション	学校心理学の概要について簡潔にまとめる。	
2	学校心理学の意義と特色	学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。	
3	学校心理学における心理教育的援助サービス	心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。	
4	学校心理学における援助方法①：アセスメント	アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。	
5	学校心理学における援助方法②：カウンセリング	カウンセリングの技法等について整理しまとめる。	
6	学校心理学における援助方法③：カウンセリング、コンサルテーション	カウンセリングとチーム援助の在り方について簡潔にまとめる。	
7	学校心理学における援助方法④：コンサルテーション、コーディネーション	コンサルテーション、コーディネーションについて簡潔にまとめる。	
8	主に学習に関係する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。	
9	主に学級集団に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	集団形成に関する援助の手法についてまとめる。	
10	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	社会性・道徳性の発達についてまとめる。	
11	主にキャリア教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。	
12	主に健康面に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	健康面に関する援助の手法についてまとめる。	
13	特別支援教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	発達障害がある子への支援方法についてまとめる。	
14	学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。	
15	学校心理学のまとめと今後の展望	学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的なまとめを行う。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％ 多面的に課題を吟味し、その支援策について自分の考えをまとめレポートする。		
小テスト等	なし		
成果発表	20％ 授業内で、話し合った結果等を発表する。		
受講態度他	20％ 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。 ・グループワークには、積極的に参加すること。 		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房		
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス	

授業科目	初等算数科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B図形、C測定、変化と関係、Dデータの活用）・数学的活動等を踏まえ、幼児期から児童期における、数量や図形に対する関心や数学的なものの見方や考え方等の特徴を理解することを目的とする。 また、各学年における内容（A～Dの4領域）の系統性や数学的活動の意義を理解し、それに関する基礎的な理論や知識を習得することを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から児童期における数に対する関心や数学的なものの見方・考え方等の特徴について説明することができる。 ・4領域（A数と計算、B図形、C測定・変化と関係、Dデータの活用）の内容、及び、系統性に関する基礎的な理論を説明することができる。 ・各領域における数学的活動について列挙することができる。 ・算数科に関する基本的な概念や用語等を踏まえ、的確に用いることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1	本講義の概要、及び、幼児期における数量や図形に対する関心	講義内容を復習し、幼児期の数に対する関心・見方等の特徴をまとめる。		
2	小学校算数科の目標・内容・算数的活動	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（P14～17）を熟読する。		
3	A数と計算①（整数・小数・分数の概念・表記）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
4	A数と計算②（整数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
5	A数と計算③（小数と分数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
6	A数と計算④（見積もり・概算）	第3～6回の講義内容を復習し、数と計算領域の系統性をまとめる。		
7	B図形①（図形の概念形成・作図）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。		
8	B図形②（面積・体積）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。		
9	B図形③（拡大・縮図・対称・単位変換）	第7～9回の講義内容を復習し、B領域の系統性をまとめる。		
10	C測定（長さやかさ等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。		
11	C変化と関係①（折れ線グラフ等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。		
12	C変化と関係②（伴って変わる2量の関係・比例・比等）	第10～12回の講義内容を復習し、C領域の系統性をまとめる。		
13	Dデータの活用①（データの分類整理等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（D領域）を熟読する。		
14	Dデータの活用②（統計・平均等）	第13～14回の講義内容を復習し、数量関係領域の系統性をまとめる。		
15	算数科概論のまとめ	第1回講義内容～第14回講義内容についてまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	20% 各領域（A～D）の系統性をまとめ、4回提出する。詳細は、授業内で指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい履修態度で臨むこと。 ・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。 			
教科書	文部科学省 『小学校指導要領解説（算数編）』 東洋館出版社			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（算数）【演習】		開講時期	前期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校学習指導要領解説「算数編」をもとに、「児童が、数量や図形の基礎的・基本的な知識及び技能の内容を理解するとともに、日常的な事象を数理的に処理する力を楽しく身に付けそれを表現する」という算数科の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、実際に、算数科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の目標を踏まえ、単元の指導計画を作成することができる。 算数科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。 算数科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。 模擬授業を通して、算数科の具体的な評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とのつながりのための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	本講義の概要説明と学習指導要領における算数科教育の目標・内容	講義内容の復習と、学習指導要領解説の目標部分の熟読		
第2回	数学的活動・問題解決型授業展開・ICT活用等について	数学的活動・問題解決型授業・ICT活用等についてまとめる。		
第3回	算数科の学習指導案の書き方①（単元観・児童観・指導観） 指導をする際の留意点 教材の解釈の仕方 子どものつまづき等	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
第4回	算数科の学習指導案の書き方②（評価規準・学習計画・展開） 前学年とのつながり 各領域のつながり 授業展開等	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
第5回	模擬授業に向けた事前準備① グループワーク等を通して、模擬授業に向けた事前準備を行う。	指導案の作成、教材の作成を行う。		
第6回	模擬授業に向けた事前準備② グループワーク等を通して児童の反応を予想し、最終的な授業構想を行う。	学習展開等を指導案の形式にまとめ、授業の練習をする。		
第7回	数と計算領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第8回	数と計算領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第9回	図形領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第10回	図形領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第11回	測定領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第12回	変化と関係領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第13回	データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第14回	データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	学習構想に関する考察・まとめ		
第15回	算数科教育・授業作りのまとめ 授業づくりについてのポイントをディスカッション等を通して整理する。	指導案の作成・提出準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学習指導案、レポート等の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 模擬授業等の内容			
受講態度他	20% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。 指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。 			
教科書	小学校指導要領解説 算数編（平成29年6月 文部科学省）			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	学級経営論【講義】	開講時期	後期
担当教員	石原 努	単位	2
授業の目的と概要	学級経営に関する課題（今日的課題や教師に関する課題）について多面的な視点から考え検証したり、学級の組織づくりに必要な教育技術に関する理論を学んだりすることを通して、学級担任の役割の重要性を理解することを目的とする。また、具体的な学級経営の方針を立て、よりよい学級集団づくりに向けた取り組みを考える等して、学級経営案を作成することを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の課題に関する情報を収集することができる。また、その課題に対応した具体的方策を立案することができる。 ・よりよい学級経営を行うために必要な教師の指導技術や要因について説明することができる。 ・子どもの実態を踏まえた学級経営のゴールの姿を描き、その実現に向けた具体的な方策を考えることができる。 ・よりよい学級経営を行っていくための方針を示した学級経営案を構想することができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	講義のオリエンテーション、及び、学級経営の概要説明	現時点での自分が描く学級経営のゴールの姿をまとめる。	
第2回	学級担任の仕事内容の全体像を理解する。 グループワークを行い、学級担任の仕事内容をカテゴリー化する。	学級担任の仕事概要を整理する。	
第3回	教員の資質・能力、及び、教育理念 ディスカッション等を通して、自分の教育観について整理する。	自分なりの教育理念についてまとめる。	
第4回	集団形成①「学級風土づくりと教師の関わり」	学級風土づくりについてまとめる。	
第5回	集団形成②「学級目標、及び、その他の目標設定」	自分なりの教育理念をもとに学級経営の方針についてまとめる。	
第6回	集団形成③「学級のルールづくり」	学級のルールと集団規律についてまとめる。	
第7回	集団形成④「基本的な学級組織づくり」	係活動や朝の会・帰りの会等についてまとめる。	
第8回	集団形成④「教室環境づくり」	学級の教室環境の具体案を考えまとめる。	
第9回	集団形成⑤「教師と子どもの人間関係構築」	教師と子どもの人間関係構築に関する取組をまとめる。	
第10回	集団形成⑥「子どもと子どもの人間関係構築」	子どもと子どものよりよい人間関係づくりについて具体的方策をまとめる。	
第11回	学級崩壊を防ぐ取組①「保護者等との連携」	懇談会の在り方や保護者との連携方法についてまとめる。	
第12回	学級崩壊を防ぐ取組②「集団での活動」	子どもが主体となった自治的活動についてまとめる。	
第13回	学級経営と子どもの評価 子どもをほめる視点等についてグループワークを行い、カテゴリー化する。	子どものよさを見取る視点とその伝達方法についてまとめる。	
第14回	始業式時の教師の動き	始業式の教師の動きについてまとめる。	
第15回	講義の振り返りと学級経営案の説明	本講義を振り返り、自分の学級経営案を作成する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％ 学級経営案の作成 1学期始業式の担任の動き		
小テスト等	なし		
成果発表	30％ グループワークやディスカッションを通して考えたことを発表する。		
受講態度他	10％ グループワークやディスカッションには、積極的に参加すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習後に出された課題を簡潔にまとめ、最終的な学級経営案にその考えを反映させること。 ・適宜、グループワークやディスカッション等を行う。それらに、積極的に参加すること。 		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	小学校学習指導要領解説「特別活動編」「総則編」 文部科学省		
オフィスアワー	月曜日2限	メールアドレス	

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	病弱者の心理的な特徴や生理・病理的な特徴を知ることが目的とする。さらに病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学習する。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学習する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 ・病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 ・病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	病弱者とは	授業内容の復習（病弱者の定義）		
第2回	極低出生体重児の心理・生理・病理（1） 極低出生体重児とは	授業内容の復習（極低出生体重児について）		
第3回	極低出生体重児の心理・生理・病理（2） ハイリスク児への支援	ミニレポート①（講義中のDVDについて考えたこと）		
第4回	腎疾患の心理・生理・病理（1） 腎疾患とは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習		
第5回	腎疾患の心理・生理・病理（2） 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 心疾患について調べる		
第6回	心疾患の心理・生理・病理 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 糖尿病について調べる		
第7回	小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理	ミニレポート③（講義中のDVDについて考えたこと） 授業内容の復習		
第8回	てんかんの心理・生理・病理（1） てんかんとは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 てんかんについて調べる		
第9回	てんかんの心理・生理・病理（2） 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 小児がんについて調べる		
第10回	小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）	ミニレポート④（講義中のDVDを見て考えたこと）		
第11回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1） ぜんそくを中心に	アレルギーについて調べる		
第12回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2） 食物アレルギーを中心に	アレルギーについて調べる		
第13回	病弱者の家族への支援（1） 家族の思い	配布プリント（病弱者の家族）通読		
第14回	病弱者の家族への支援（2） 家族への支援	ミニレポート⑤（配布プリント、DVDを見て考えたこと）		
第15回	まとめ	復習、期末レポートへの準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55% 期末レポート 40% ミニレポート（5回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5% 受講態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布しますので、ファイルを用意して下さい。 事前に授業計画に書かれている疾患について自己学習をして下さい。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	谷川弘治・駒松仁子、松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	前期 月曜日4講目・木曜日昼休み 後期 金曜日2講目・木曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教職入門【講義】		開講時期	後期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して、教職についての理解を深めること、及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して、自らの教員としての適性や能力、進路について考察する。</p> <p>本講義を通して、教職についての基礎的・基本的な知識を修得していく。ディスカッション等を通して、教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討、目指す教員像に向けて目標設定などを行い、教職についての理解を深め、自らの教員としての適性や能力、進路について考察していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職の意義、及び教員の役割について理解し、説明することができる。 2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）について理解し、説明することができる。 3 教員の職務の事例、子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し、自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。 4 目指す教員像を具体的に描き、実現のために行動目標を設定し達成していくことができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	学校教育について（教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領 等）	法規を基に教育の目的等について確認し、ノートにまとめる。		
第2回	教員観の変遷と求められる教員像について、「心に残っている先生」についてディスカッション	求められる教員像、自らの教員観を確認する。		
第3回	教育の動向と教育施策について	教育の動向と教育施策について確認する。		
第4回	教職の意義と教員の役割について、事例を基にディスカッション	教職の意義、教員の役割についてノートにまとめる。		
第5回	子どもと教育の現状、チームとして組織的に対応する重要性	子どもと教育の現状について振り返り、自らの考えをもつ。		
第6回	教員の職務内容 1 研修、服務及び身分保障等	教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。		
第7回	教員の職務内容 2 教育課程の編成と指導計画の作成	教育課程と指導計画についてノートにまとめる。		
第8回	教員の職務内容 3 学習指導・保育（学級経営と指導力、授業・保育の成立）	学級経営、指導力について確認する。		
第9回	教員の職務内容 4 学習指導・保育（魅力ある授業・保育）、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。		
第10回	教員の職務内容 5 生徒指導・生活指導（意義と課題）	生徒指導の意義と課題について確認しノートにまとめる。		
第11回	教員の職務内容 6 生徒指導・生活指導の実際、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。		
第12回	学校事故と危機管理	学校事故と危機管理について確認し、ノートにまとめる。		
第13回	学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立	学校・家庭・地域社会の連携について確認する。		
第14回	学校教育目標の具現化と学校組織、学校評価	学校教育目標の具現化、学校組織、学校評価について確認する。		
第15回	目指す教員像と目標設定（ディスカッション）	行動目標の達成に向けて努力を継続する。		
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	30％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年6月） 文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年3月）			
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授業科目	道徳教育指導論【講義】		開講時期	前期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的指導力を身に付ける。</p> <p>授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、学習指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。 3 基本的な学習指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。 4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	道徳教育の目標、道徳科の目標、小学校学習指導要領の改正 「心に残っている道徳の授業についてグループディスカッション・全体発表	道徳教育の目標、道徳科の目標を確認し、ノートにまとめる。		
第2回	道徳科の内容、指導計画の作成、道徳科の指導	道徳科の内容を確認する。教材を精読する。		
第3回	道徳科の授業（師範授業）の体験とディスカッション 学習指導案作成について、教材の活用について	道徳科の授業を振り返り、ノートにまとめる。		
第4回	学習指導案の作成（グループワーク）1 ねらい、教材分析、学習指導過程	教材を精読し、分析する。		
第5回	学習指導案の作成（グループワーク）2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫	学習指導案を作成する。		
第6回	学習指導案の作成（グループワーク）3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫	学習指導案を作成し、提出の準備をする。		
第7回	学習指導案の作成（グループワーク）4 教材作成	学習指導案の提出。教材作成。		
第8回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）1 教材提示の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う		
第9回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）2 発問の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第10回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）3 話し合い活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第11回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）4 書く活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第12回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）5 表現活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第13回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）6 板書を生かす工夫、説話等の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。		
第14回	道徳性の理解と評価	「解説」を読み、ノートにまとめる。		
第15回	道徳教育の目標、道徳科の目標、模擬授業、講義内容等から道徳科の指導のあり方と「心に残っている道徳	道徳教育の目標等について整理し、記述できるようになる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％			
小テスト等	なし			
成果発表	40％（模擬授業）			
受講態度他	20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>模擬授業への取組み、討議の状況を重視する。 将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。</p>			
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年6月）			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省「小学校学習指導要領」（平成29年3月）			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		

授業科目	教育相談【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	この科目は、初等教職課程授業科目の一つで、教職に関する科目のうち生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目の「教育相談(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)」の理論及び方法について学ぶものである。 教育現場で子どもたちが現す問題行動への対応は、教師にとっては避けて通ることのできない重要な問題である。的確な「見立て」と適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われることになる。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い、関わり合う姿勢が求められている。 この「教育相談」の授業をとおして、問題を抱え課題に直面する子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生の予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解を深めていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。 ・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。 ・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。 ・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について 関連する科目：幼児理解、カウンセリング概論、		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	教育相談とは 子どもの現状、教育相談の意義、事例の提示とそれに基づくディスカッション	教育現場が抱える子どもの問題について、新聞や雑誌を調べリストを作る	
第2回	発達課題と教育相談 子どもの発達課題と子どもの問題、教育相談の果たす役割	子供の発達課題とつまずきについて調べる	
第3回	教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談	教師との自分自身の相談体験について思い出しまとめる	
第4回	スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員	自分の卒業した中学校でSCがどのような活動をしていたかまとめる	
第5回	精神分析(1) 無意識の心理学、心的決定論、	自分の見た夢や失脚行為について思い出し記録する	
第6回	精神分析(2) 自我の働き、防衛機制	自分がよくとる防衛機制について、エピソードの形でまとめる	
第7回	行動理論 子ども問題に対する理解の仕方(未学習、誤学習、過学習性の問題)、賞と罰、スモールステップ	日常生活に見られる行為や出来事について、学習理論で説明してみる	
第8回	カウンセリング(1) ロジャーズの非指示的カウンセリング、クライエント中心療法	自分が受けたカウンセリングの体験エピソードをまとめる	
第9回	カウンセリング(2) 受容・共感・自己一致 小グループでのカウンセリングのロールプレイ(実習)	自分が他者に対して行ったカウンセリング的行為についてまとめる	
第10回	現場で出会う心理的諸問題(1) 不登校を中心に	適応指導教室やフリースペース等についての情報を収集しリストを作る	
第11回	現場で出会う心理的諸問題(2) ⑭精神遅滞、⑮発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に	発達障がいをテーマにしたビデオを観て、障がいについての考えをまとめる	
第12回	現場で出会う心理的諸問題(3) いじめ問題を中心に 重大事態についての対処についてディスカッション	重大事態のいじめ事件について、事件の背景、実態等について調べる	
第13回	教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント	教師の心の健康に関する問題について、新聞や雑誌から調べる	
第14回	園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防	PTSDと心のケアについて、新聞や雑誌から調べる	
第15回	保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働	子どもの問題に対する地域コミュニティの取り組みについて調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100% 期末レポート		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。		
教科書	なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する		
指定図書	なし		
参考図書	長友久雄(編著) 『学校カウンセリング入門』 ミネルバ書房 向後礼子・山本智子 『教育相談ワークブック 子どもの育ちを支える』 ミネルバ書房		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	幼児理解【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業は、初等教職課程授業科目の生徒指導、教育相談および進路指導等に関する科目の一つで、幼児理解の理論と方法について学ぶものである。</p> <p>具体的には、幼児期の子どもさまざまな心理的問題に的確に対応するために必要となる、幼児期の子どもの心理的特質と発達に関する基本的知識について習得することを目的とする。</p> <p>幼児期の子どもは、発達が未分化から分化の方向に向かう途上段階にある。言葉によるコミュニケーション能力が未熟であるために、遊びや行動観察をとおして、幼児理解を進めなければならないことを学習する。また、母子関係の発達の歪みによる問題も重要であり、母子関係を見る視点についても学習する。授業は講義形式で進めるが、映像資料を視聴することで理解を促す。</p>		
到達目標	<p>①子どもの発達と臨床の基盤となる理論を習得する</p> <p>②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接の実際を理解し、身につける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>初C (3) ②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼C (3) ②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>関連する科目：発達心理学Ⅰ，発達と教育，教育相談</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	幼児理解の必要性 発達や適応に問題を持つ事例の提示とディスカッション 幼児理解の必要性の確認	幼児理解の欠如や不足から起きた事件・事故について調べまとめる	
第2回	幼児理解の基盤となる発達理論と発達の法則 基本的な発達理論 発達の法則	育児にまつわる「ことわざ」について、その意味について調べる	
第3回	身体発達とこころの発達 身体発達とこころの発達の関連	誕生から幼児期までの運動機能の発達について調べまとめる	
第4回	知性の発達 子どもは世界をどのように理解しているのか	子どもの世界理解(アニミズム等)を表す子ども独特の表現を収集する	
第5回	言葉の発達と意義 言葉以前のコミュニケーション 言葉獲得の道筋 言葉の役割	幼児期独特の言葉の問題と特徴について調べまとめる。	
第6回	子どもの人間関係 母子関係の成立 分離・独立 友達関係の広がり	自分の子ども時代のアルバムをもとに、自分の母子関係について考える	
第7回	幼児理解のためのアセスメント 行動観察 遊び 面接 遊戯療法	期末レポート作成のための資料収集	
第8回	さまざまな子どもの理解と保護者支援 さまざまな子ども(発達障がい等) 治療教育 保護者支援のポイント	期末レポート作成のための資料整理と執筆	
第9回	—	—	
第10回	—	—	
第11回	—	—	
第12回	—	—	
第13回	—	—	
第14回	—	—	
第15回	—	—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	80%(期末レポート60%、小レポート20%) 小レポートは、4回目終了時に課題を提示する。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の妨害となる私語は厳しく注意する。 授業外の学習課題として小レポートの提出を求める。評価の対象とするので、遅滞することなく提出をするように。		
教科書	なし 毎回、レジユメを配付する。		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、適宜紹介をする。		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	教育課程・方法論【演習】		開講時期	前期
担当教員	平山 静男		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明することができるようになることを目的とする。あわせて、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明することができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、小学校学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施から成る。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明することができる。 2, 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明することができる。 3, 教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明することができる。 4, 教育課程編成の基本原理を説明することができる。 5, 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 6, 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を説明することができる。 7, 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。教育課程の実際。	復習：実際の教育課程の調査		
第2回	学習指導要領改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、道徳の特別の教科化	レポート作成①「教育課程の実際」		
第3回	教育課程の意義、教育課程に関する法制－教育課程とその基準－	復習：教育課程に関する法制の調査		
第4回	発表「教育課程に関する法制」	復習：教育課程に関する法制の振り返り		
第5回	小学校教育の基本と教育課程の役割－教育課程編成の原則、生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開	復習：生きる力を中心に据えた学習指導要領の構成の振り返り		
第6回	小学校教育の基本と教育課程の役割－育成を目指す資質・能力－	復習：育成を目指す資質・能力の構成の振り返り		
第7回	小学校教育の基本と教育課程の役割－カリキュラム・マネジメントの充実－	レポート作成②「カリキュラム・マネジメントの実際」		
第8回	教育課程の編成－各学校の教育目標と教育課程の編成、教科等横断的な視点に立った資質・能力－	復習：教育目標を目指す教育課程の編成の実際		
第9回	教育課程の編成－教育課程の編成における共通的事項、学校段階等間の接続－	復習：学校段階等間の接続を重視した教育課程の編成の実際		
第10回	教育課程の実施と学習評価－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と教育方法－	レポート作成③「主体的・対話的で深い学びに迫る教育方法」		
第11回	教育課程の実施と学習評価－学習評価の充実－	復習：学習評価の振り返り		
第12回	児童の発達支援－児童の発達を支える指導の充実－	復習：児童の発達を支える指導の振り返り		
第13回	児童の発達支援－特別な配慮を必要とする児童への指導－	復習：特別な配慮を必要とする児童への指導の振り返り		
第14回	コンピュータや情報通信ネットワークを活用した教育方法	レポート作成④「私の考えるカリキュラム・マネジメント」		
第15回	ディスカッション「私の考えるカリキュラム・マネジメント」	復習：授業全般についての振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80％。授業で扱ったテーマに関するレポート、計4回。次時に返却。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社			
オフィスアワー	火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	初等理科概論【講義】	開講時期	後期
担当教員	平山 静男	単位	2
授業の目的と概要	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を説明することができようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明することができるようになることを目的とする。 授業は、理科の改訂の経緯及び基本方針、理科改訂の趣旨及び要点、理科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いから成る。		
到達目標	1, 学習指導要領における理科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。 2, 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。 3, 理科の学習評価の考え方を説明することができる。 4, 理科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。改訂の経緯及び基本方針	復習：基本方針を中心とした振り返り。	
第2回	理科改訂の趣旨、理科改訂の要点	復習：改訂の要点を中心とした振り返り。	
第3回	教科の目標	復習：理科の目標についての振り返り。	
第4回	理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方	レポート作成①「学習指導要領改訂の要点と理科の関連」	
第5回	第3学年の目標についてのプレゼンテーション	復習：目標の構成についての振り返り。	
第6回	第3学年の内容についての実習	復習：内容についての振り返り。	
第7回	第4学年の目標についてのプレゼンテーション	復習：目標の構成についての振り返り。	
第8回	第4学年の内容についての実習	復習：内容についての振り返り。	
第9回	第5学年の目標についてのプレゼンテーション	復習：目標の構成についての振り返り。	
第10回	第5学年の内容についての実習	復習：内容についての振り返り。	
第11回	第6学年の目標についてのプレゼンテーション	復習：目標の構成についての振り返り。	
第12回	第6学年の内容についての実習	レポート作成②「各学年の目標と内容の構成」	
第13回	指導計画作成上の配慮事項	レポート作成③「指導計画作成上の配慮事項についてのまとめ」	
第14回	内容の取扱いについての配慮事項	レポート作成④「内容の取扱いについての配慮事項のまとめ」	
第15回	事故防止、薬品などの管理、授業のまとめ	復習：事故防止、薬品などの管理についての振り返り。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	80%。授業内容の理解、及び授業内容を受けての自身の考えに関するもの、計4回。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20%。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。		
教科書	使用しない。		
指定図書	なし。		
参考図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社		
オフィスアワー	火曜日3限	メールアドレス	

授業科目	初等教科教育法（音楽）【演習】		開講時期	前期
担当教員	北原 涼子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>○音楽科における表現及び鑑賞の活動を通して、学習指導要領に示された目標、内容を理解することができるようにする。 ○音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す授業の在り方について理解を深める。 ○指導目標を立て、指導内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、子ども自身が学習で身につけた内容を評価できるような学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を培うことを目的とする。</p>			
到達目標	<p>○音楽科の教育目標を理解して題材の指導計画を作成することができる。 ○音楽科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ○音楽科指導に関わる指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 ○音楽科指導における評価の方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (4) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けることができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	学習指導要領における音楽科の概観と音楽教育の目標について	学習指導要領を詳読する。		
第2回	小学校学習指導要領（音楽）について、教科目標、各学年の目標、内容の理解	目標と内容をまとめる。		
第3回	年間指導計画、学習指導案の書き方、評価の意義（ディスカッション）	学習指導案の書き方、評価について復習する。		
第4回	教材研究のあり方、学習指導案の作成について（ディスカッション）	学習指導案を作成する。		
第5回	第1学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	1年表現の学習指導についてまとめる。		
第6回	第2学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	2年表現の学習指導についてまとめる。		
第7回	第1・2学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	低学年鑑賞指導についてまとめる。		
第8回	第3学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	3年表現の学習指導についてまとめる。		
第9回	第4学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	4年表現の学習指導についてまとめる。		
第10回	第3・4学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	中学年鑑賞指導についてまとめる。		
第11回	第5学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	5年表現の学習指導についてまとめる。		
第12回	第5学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	5年鑑賞指導についてまとめる。		
第13回	第6学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	6年表現の学習指導についてまとめる。		
第14回	第6学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫（討議、グループワーク、発表）	6年鑑賞指導についてまとめる。		
第15回	授業評価による授業改善の工夫と講義のまとめ（討議、グループワーク、発表）	全体を振り返りまとめる。		
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% 学習指導案細案提出			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% 模擬授業、協議会参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○音楽活動の楽しさを自ら実感し、そのよさを味わえるよう授業に参加すること。 ○自分の思いや意図をもち、グループ討議に積極的に参加し、表現すること。 ○模擬授業においては、グループで役割を分担し、積極的に学習指導案の作成や資料作りに参画し発表すること。</p>			
教科書	小学校教員養成課程用『最新 初等科音楽教育法』 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 音楽之友社			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	月曜日 2限 水曜日2限・昼休み	メールアドレス		